

古典ギリシャ語の形容詞の

収斂的語順と展開的語順について

竹島 俊之

1. 「古典ギリシャ語の構文論的研究(2)」¹⁾の中で、形容詞とそれが修飾する名詞の間の語順関係をかなり詳細に論じたのだが、それをもう一度整理しておきたい。資料はヨハネ伝を用いる。

(1) ἐν τούτῳ ἐδοξάσθη ὁ πατήρ μου, ἵνα καρπὸν πολὺν φέρητε καὶ γενήσθε ἐμοὶ μαθηταί. 15,8

この点で私の父は栄光を与えられたのである。
あなた方がたくさんの果実をもたらすようにと、
またあなた方が私の弟子になるようにと。

(2) ἀμὴν ἀμὴν λέγω ὑμῖν, ἐὰν μὴ ὁ κόκκος τοῦ σίτου περῶν εἰς τὴν γῆν ἀποθάνῃ, αὐτὸς μόνος μένει. ἐὰν δὲ ἀποθάνῃ, πολὺν καρπὸν φέρει. 12,24

まことに、まことにあなた方に言う。穀物の種が地に落ちて死ななければそれはそれだけのままである。もし死ねば、多くの実をもたらす。

(3) Ἦκολούθει δὲ τῷ Ἰησοῦ Σίμων Πέτρος καὶ ἄλλος μαθητής. 18,15

イエスにシモン・ペトロスともう一人の弟子がついて行った。

(4) ἐξῆλθεν οὖν ὁ μαθητής ὁ ἄλλος ὁ γνωστός

τοῦ ἀρχιερέως. 18,16

司祭長の知り合いのもう一人の弟子が出てきた

(1)の文では πολὺν「多くの」という形容詞は καρπὸν「実」の後に位置し、(2)では πολὺν は καρπὸν の前に位置している。(3)の文では ἄλλος「もう一人の」という形容詞は μαθητῆς の前に位置し、(4)の文では ὁ ἄλλος は ὁ μαθητῆς の後に位置している。

このように古典ギリシャ語では形容詞は被修飾名詞の前に位置したり、後に位置したりする。そしてこれは形容詞だけに限らず、指示代名詞、不定代名詞、属格、分詞、さらには関係代名詞とそれが修飾する名詞（英文法での関係代名詞と先行詞）の間にも見られる現象である。

前述の論文の中では、形容詞などが後置される場合を「叙述的」、前置される場合を「一概念的」という言葉で説明したが²⁾ 本稿では前者を「展開的語順」、後者を「収斂的語順」という術語で統一的に説明してみよう。

- (5) καθὼς ἔδωκας αὐτῷ ἐξουσίαν πάσης σαρκός, ἵνα πᾶν ὃ δέδωκας αὐτῷ δώσῃ αὐτοῖς ζωὴν αἰώνιον. αὕτη δέ ἐστιν ἡ αἰώνιος ζωὴ ἵνα γινώσκωσιν σὲ τὸν μόνον ἀληθινὸν θεὸν καὶ ὃν ἀπέστειλας Ἰησοῦν Χριστόν. 17,2-3
- 彼に与えたものすべてが彼らに永遠の命を与えるように、とあなたが彼にすべての肉への權威を与えたように。これが永遠の命なのです。あなたを唯一の、真の神と認識し、あなたが送ったイエスをキリスト（香油を塗られた人）と認識することが。

この文の中では ἐξουσίαν πάσης σαρκός において属格と被修飾名詞の関係が展開的語順、属格の πάσης と σαρκός の関係が収斂的語順と分析される。さらに ζωὴν αἰώνιον が展開的語順、ἡ αἰώνιος ζωὴ が収斂的語順、τὸν μόνον ἀληθινὸν θεὸν が収斂的語順、ὃν ἀπέστειλας Ἰησοῦν が収斂的語順と分析される。

2. 数詞

数詞は多くの場合、名詞の前に置かれる。すなわち収斂的語順になることが多い。

- (6) διακοσίων δηνარიών ἄρτοι οὐκ ἀρκοῦσιν αὐτοῖς. 6,7
百デナリオンのパンでも彼らにはじゅうぶんではない
- (7) ὃς ἔχει πέντε ἄρτους κριθίνους. 6,9
彼は大麦入りの五つのパンをもっている
- (8) ἐγένισαν δώδεκα κοφίνους κλασμάτων ἐκ τῶν πέντε ἄρτων τῶν κριθίνων 6,13
彼らは大麦入りの五つのパンからのパン屑で
十二個の籠を一杯にした
- (9) ἔλαβον τὰ ἱμάτια αὐτοῦ καὶ ἐποίησαν τέσσαρα μέρη 19,23
彼らは上着を奪い、四つに分けた

これに対してヨハネ伝の次の例文では数詞が後置されている。

- (10) ἐληλακότες οὖν ὡς σταδίου ἑξήκοντα πέντε ἢ τριάκοντα 6,19
二十五、三十スタディオン進んだ頃

これは数詞に意味の比重があり、従って後置されている、すなわち展開的語順がとられている、と説明される。数詞に意味の比重があることは次の例文でもよく示されている。

- (11) ἀνέπεσαν οὖν οἱ ἄνδρες τὸν ἀριθμὸν ὡς πεντακισχίλιοι 6,10
人々が席についた、その数五千人ほどが

- (12) ἦν δὲ ἡ Βηθανία ἐγγὺς τῶν Ἱεροσολύμων ὡς ἀπὸ σταδίων δεκάπεντε 11,18
 ベーサニアはエルサレムの近くでおよそ十五
 スタディオン離れていた
- (13) μεθ' ἡμέρας ὀκτώ πάλιν ἦσαν ἔσω οἱ μαθηταὶ
 αὐτοῦ καὶ Θωμᾶς μετ' αὐτῶν. 20,26
 八日後ふたたび彼の弟子たちは中にいた、
 そしてトーマスが彼らと一緒に

3. πᾶς 「すべての」

πᾶς も普通には修飾する名詞の前に置かれる。すなわち、収斂的語順が顕著である。

- (14) πᾶς ὁ λαός ἦρχετο πρὸς αὐτόν, 8,2
 すべての民衆が彼のところに来た
- (15) ,ἵνα πᾶς ὁ πιστεύων εἰς ἐμὲ ἐν τῇ σκοτίᾳ
 μείνῃ.12,46
 私を信じるすべての人が暗闇に残されない
 ように
- (16) Ἰησοῦς οὖν εἰδὼς πάντα τὰ ἐρχόμενα ἐπ' αὐτόν 18,4
 イエスは来るものすべてが自分を目指している
 のを知って
- (17) ὅπου πάντες οἱ Ἰουδαῖοι συνέρχονται 18,20
 そこにはすべてのユダヤ人が集まって来ます
- (18) πᾶς ὁ βασιλέα ἑαυτὸν ποίων ἀντιλέγει τῷ Καίσαρι. 19,12
 自分を王にする人は皆皇帝に反駁するのです

(19) ἔρχεται ὥρα ἵνα πᾶς ὁ ἀποκτείνας ὑμᾶς δόξη
λατρείαν προσφέρειν τῷ θεῷ. 16,2
あなた方を殺すすべての人が神に奉仕をすると
思われる時がくる

(20) καθὼς ἔδωκας αὐτῷ ἐξουσίαν πᾶσης σαρκός 17,2
すべての肉への権威を彼に与えたように

(21) ἦν τὸ φῶς τὸ ἀληθινόν, ὃ φωτίζει πάντα
ἄνθρωπον, ἐρχόμενον εἰς τὸν κόσμον 1,9
これは世に来るすべての人を照らす真の
光だった。

他に 3,15 ; 3,16 ; 3,20 ; 4,13 ; 18,37

πᾶς が展開的語順をとる例文も見いだされる。しかし収斂的語順の
場合とは意味の違いが認められる。

(22) ὅταν δὲ ἔλθῃ ἐκεῖνος, τὸ πνεῦμα τῆς ἀληθείας,
ὁδηγήσει ὑμᾶς ἐν τῇ ἀληθείᾳ πᾶση. 16,13
それが、すなわち真理の霊があなた方を
ことごとくの真理で導くだろう

(23) οὐδὲ γὰρ ὁ πατήρ κρίνει οὐδένα, ἀλλὰ τὴν
κρίσιν πᾶσαν δέδωκεν τῷ υἱῷ. 5,22
父ご自身は誰も裁かず、裁きはすべて子に委ねた

ὅλος「全体の」の場合も収斂的語順の例文が見いだされる。

(24) μὴ ὅλον τὸ ἔθνος ἀπόληται. 11,50
民族全体が滅びないように

4. 一般の形容詞および指示代名詞で収斂的語順が顕著な例。

(25) τοῦτο δὲ ἐστὶν τὸ θέλημα τοῦ πέμψαντός με
ἵνα πᾶν ὃ δέδωκέν μοι μὴ ἀπολέσω ἐξ αὐτοῦ
ἀλλὰ ἀναστήσω αὐτὸ ἐν τῇ ἐσχάτῃ ἡμέρᾳ.
6,39

これが私を送って下さった方の意志である。
私にお与えになったものを何一つ失わない
ために。しかし最後の日にそれを蘇らせよう

(26) λέγει αὐτῷ ἡ Μάρθα. οἶδα ὅτι ἀναστήσεται ἐν τῇ
ἀναστάσει ἐν τῇ ἑσχατῇ ἡμέρᾳ.11,24

マルタは彼に言う、私は知っています、彼が
最後の日に復活において蘇るだろうことを

(27) ὁ ἀθετῶν ἐμέ καὶ μὴ λαμβάνων τὰ ἡήματά μου
ἔχει τὸν κρίνοντα αὐτὸν. ὁ λόγος ὃν ἐλάλησα
ἐκεῖνος κρίνει αὐτὸν ἐν τῇ ἑσχατῇ ἡμέρᾳ.12,48

私を退ける人、私の言葉を受け入れない人は
彼を裁く人を持つ。私が語った言葉、それが
最後の日に彼を裁くだろう。

ヨハネ伝では「最後の日に」は他に 6,40 ; 6,44 ; 6,54 に現われている。

同じように次の例文では指示代名詞 ἐκεῖνη が収斂的語順をとっている。

(28) ἐν ἐκεῖνῃ τῇ ἡμέρᾳ ἐμέ οὐκ ἐρωτήσετε οὐδέν.16,23
その日にはあなた方は私に何も尋ねないだろう

(29) ἐν ἐκεῖνῃ τῇ ἡμέρᾳ ἐν τῷ ὀνόματί μου αἰτήσεσθε
16,26

その日にはあなた方は私の名で願おうよ

(30) ἐν ἐκεῖνῃ τῇ ἡμέρᾳ γνώσεσθε ὑμεῖς ὅτι ἐγὼ ἐν
τῷ πατρὶ μου καὶ ὑμεῖς ἐν ἐμοὶ καὶ ἐν ὑμῖν.14,20
その日にはあなた方は知るだろう、私が父の中に、
あなた方が私の中にそして私があなた方の中にい
ることを

ヨハネ伝 20 章の中で 4 回出現している ὁ ἄλλος μαθητής「もう一人の弟子」はこの福音書を記述したヨハネ自身を指しており、(3)の無冠詞の ἄλλος μαθητής もこの人を指している。

(31) ἔρχεται πρὸς Σίμωνα Πέτρον καὶ πρὸς τὸν ἄλλον μαθητήν 20,2

彼女はシモン・ペトロともう一人の弟子のところに
来る。

(32) ἐξῆλθεν οὖν ὁ Πέτρος καὶ ὁ ἄλλος μαθητής 20,3

シモン・ペトロともう一人の弟子が出て行った

(33) ὁ ἄλλος μαθητής προέδραμεν τάχιον τοῦ Πέτρου 20,4

もう一人の弟子はペトロよりも早く走った

(34) τότε οὖν εἰσῆλθεν καὶ ὁ ἄλλος μαθητής 20,8

その時、もう一人の弟子も入ってきた

展開的語順の(4)の文を収斂的語順のこれらの文と比較すると両概念の違いが際立つように思われる。

5. 指示代名詞

5.1. 展開的語順

(35) ἐγὼ οὐκ εἶμι ἐκ τοῦ κόσμου τούτου. 8,23

私はこの世からの者ではない

(36) ὁ μισῶν τὴν ψυχὴν αὐτοῦ ἐν τῷ κόσμῳ τούτῳ
εἰς ζωὴν αἰώνιον φυλάξει αὐτήν. 12,25

この世で命を憎む者は永遠の命へとそれを守る

(37) νῦν κρίσις ἐστὶν τοῦ κόσμου τούτου. 12, 31

今はこの世の裁きである

(38) ἃ οὐκ ἔστιν γεγραμμένα ἐν τῷ βιβλίῳ τούτῳ 20,30
この書に書かれていない

(39) λέγει οὖν ὁ μαθητὴς ἐκεῖνος ὃν ἠγάπα ὁ Ἰησοῦς
τῷ Πέτρῳ 21,7
イエスが愛しておられたあの弟子がペトロに言う

(40) πᾶς ὁ πίνων ἐκ τοῦ ὕδατος τούτου 4,13
この水を飲むすべての人は

この文はこれが置かれている文脈の中で、次の収斂的語順の文と対比して考察すべきであるようにおもわれる。

(41) δός μοι τούτο τὸ ὕδωρ 4,15
その水を私に下さい

(42) οἱ πατέρες ἡμῶν ἐν τῷ ὄρει τούτῳ προσέκυνησαν.
4,20
私たちの先祖はこの山で祈りました

(43) ἐγὼ οὐκ ἀναβαίνω εἰς τὴν ἑορτὴν ταύτην 7,8
私はこの祭りには行きません

(44) τίς ἐστιν ὁ λόγος οὗτος ὃν εἶπεν 7,36
彼が言ったこの言葉は何であるか

5.2. 収斂的語順

(45) ὁ τρώγων τοῦτον τὸν ἄρτον ζήσει εἰς
τὸν αἰῶνα 6,58
このパンを食べる人は永遠に生きるだろう

(46) αὕτη ἡ γυνὴ κατείληπται ἐπ' αὐτοφώρῳ 8,4
この女性は現行犯で逮捕されました

(47) αὕτη ἡ ἀσθένεια οὐκ ἔστιν πρὸς θάνατον ἀλλ'

ὑπὲρ τῆς δόξης τοῦ θεοῦ.11,4

この病気は死に向かうものではなく、神の
栄光のためなのです

(48) ἀπ' ἐκείνης οὖν τῆς ἡμέρας ἐβουλευσαντο ἵνα
ἀποκτείνωσιν αὐτόν.11,53

その日から彼らは彼を殺そうと協議した

(49) διὰ τί τοῦτο τὸ μύρον οὐκ ἐπράθη τριακοσίων
δηνარიῶν καὶ ἐδόθη τοῖς πτωχοῖς;12,5

なぜこの香油を30デナリオンで売って、
貧乏な人に与えなかったのか

(50) τίς ἐστὶν οὗτος ὁ υἱὸς τοῦ ἀνθρώπου;12,34

この人の子というのは誰ですか

(51) ὅτε οὖν ἤκουσεν ὁ Πιλάτος τοῦτον τὸν λόγον .
μᾶλλον ἐφοβήθη.19,8

ピラトはこの言葉を聞いたときいっそう恐れた

(52) ἦν γὰρ μεγάλη ἡ ἡμέρα ἐκείνου τοῦ σαββάτου
19,31

この安息日は大きな祝祭日だったから

(53) ἐξῆλθεν οὖν οὗτος ὁ λόγος εἰς τοὺς ἀδελφοὺς
ὅτι ὁ μαθητὴς ἐκεῖνος οὐκ ἀποθνήσκει.21,23

あの弟子は死なないという噂が兄弟たちの間で
広まった。

(54) ἔγνω οὖν ὁ πατὴρ ὅτι ἐν ἐκείνῃ τῇ ὥρᾳ ἐν ἧ
εἶπεν αὐτῷ ὁ Ἰησοῦς, ὁ υἱὸς σου ζῆ.4,53

父親はイエスがお前の息子は生きる、と言った
時刻である、と知った

(55) ἦν δὲ σάββατον ἐν ἐκείνῃ τῇ ἡμέρᾳ 5,9

その日は安息日だった

5.3. 展開的語順の文も収斂的語順の文も同じような頻度で現われているのだが、指示代名詞の語順は現代英語、ドイツ語では収斂的語順のみが許されるのに対して、ギリシャ語では文脈によって展開的語順も許されることを学習の最初から認識しているだけでじゅうぶんであると私は考える。ちょうど属格と被修飾名詞の関係において現代ドイツ語では圧倒的に展開的語順が優勢であるが、ザクセン2格という収斂的語順が使われる文が時折見いだされ、それをザクセン2格だと判断すれば何の抵抗もなく受容できると同じように。

古田尚久氏は「日本語手話では、一般的に修飾語が後置される傾向がある」と述べているが³⁾、具体的事物たとえば「靴」をまず表出し、その後で抽象性の強い形容詞たとえば「赤い」を表出して、全体として「赤い靴」を表出するという、この手話の原理はそのまま、この論文で述べている展開的語順に当てはまる、と思われる。

6. 品質形容詞、数量形容詞

指示代名詞について 5.3.で述べたことは品質形容詞、数量形容詞にもそのままあてはまる。すなわち、英語でもドイツ語でも付加語的用法の場合は修飾する名詞の前に置かれる収斂的語順だけが許されるがギリシャ語の場合は展開的語順が普通である。これを理解するには、英語、ドイツ語で関係代名詞と先行詞という関係で展開的語順が固定したこと、ドイツ語で属格と被修飾名詞の間で展開的語順が固定したその原理を考えれば抵抗なく受容できるように思われる。

(56) καὶ πᾶν τὸ καρπὸν φέρον καθαίρει αὐτὸ ἵνα

καρπὸν πλείονα φέρῃ. 15,2

実をつけるすべての(枝は)もっと多くの実をつけるようにと(農夫は)それを剪定する。

(57) ὁ μένων ἐν ἐμοὶ κἀγὼ ἐν αὐτῷ οὗτος φέρει

καρπὸν πολὺν.15,5

私の中にとどまり、私も彼の中にとどまる人、

その人は多くの果実をもたらす。

(58) ἐν τούτῳ ἐδοξάσθη ὁ πατήρ μου, ἵνα καρπὸν

πολύν φέρητε καὶ γένησθε ἐμοὶ μαθηταί. 15,8

この点で私の父は栄光を与えられたのである、
あなた方がたくさんの果実をもたらすようにと、
またあなた方が私の弟子になるようにと

(59) ἀμήν ἀμήν λέγω ὑμῖν, ἐὰν μὴ ὁ κόκκος τοῦ σίτου

περὶ εἰς τὴν γῆν ἀποθάνῃ, αὐτὸς μόνος μένει.

ἐὰν δὲ ἀποθάνῃ, πολὺν καρπὸν φέρει. 12,24

まことに、まことにあなた方に言う。穀物の種
が地に落ちて死ななければそれだけのままであ
る。もし死ねば、多くの実をもたらす。

(58)の文では πολὺν「多くの」という形容詞は後置され、(59)ではそれは前置されている。前者の文では「もたらす」という行為の主体は「あなた方」である。(56),(57)の主体も具体的に表象できる、従って叙述的な語順である展開的語順が用いられている。(59)では行為の主体は背景に退き、「多くの実」が一つの概念として提示され、従って収斂的語順が用いられている、と説明される。

(60) λέγουσιν οἱ μαθηταὶ αὐτοῦ. ἶδε νῦν ἐν παρρησίᾳ
λαλεῖς καὶ παροιμίαν οὐδεμίαν λέγεις. 16,29

彼の弟子たちは言う、今あなたは明瞭に語って
おられます、いかなる譬えも言っておられません。

(61) ἶδε ἄγω ὑμῖν αὐτὸν ἔξω, ἵνα γνῶτε ὅτι οὐδεμίαν
αἰτίαν εὐρίσκω ἐν αὐτῷ. 19,4

見よ、私は彼を外に連れ出した、私が彼にいかな
る罪も見いださないとすることをあなた方が知る
ように。

(60) の παροιμίαν οὐδεμίαν はイエスに直接向けられた発話の中であるために展開的語順であり、(61)の οὐδεμίαν αἰτίαν は従属節の中であるので収斂的語順と説明される。

7. 関係代名詞節と被修飾名詞の語順

7. 1. 展開的語順、

これは英文法での関係代名詞節と先行詞の関係に一致する語順である。

(62) ὅτι ἐθεώρουν τὰ σημεῖα ἃ ἐποίει ἐπὶ τῶν
ἀσθενούντων 6,2

彼が病人たちにたいして行っていたしるしを
見ていたから

(63) πᾶν ἃ δίδωσίν μοι ὁ πατήρ πρὸς ἐμέ ἤξει 6,37
父が私に与えたものはすべて私のところに来る
だろう

(64) νῦν δὲ ζητεῖτέ με ἀποκτεῖναι ὅς τιν ἄλήθειαν
λελάληκα ὑμῖν ἧν ἤκουσαν παρὰ τοῦ θεοῦ 8,40
今あなた方は父から聞いた真理を語った私を
殺そうとしている

(65) ἄλλα πρόβατα ἔχω ἃ οὐκ ἔστιν ἐκ τῆς αὐλῆς ταύτης
10,16
この羊小屋からではない別の羊を持っている

英文法の関係代名詞と先行詞と同じ語順を示しているのは
1,2;1,4;1,24;1,39;1,39;1,41;2,24;4,14;5,20;10,25;11,2;12,49;13,23;
14,12;14,17;14,24;14,26;15,26;17,2;17,6;17,7;17,11;17,22;17,24;18,
11;18,13;18,32;19,26;21,7;21,20;21,25;

7.2. 収斂的語順

英文法で言う先行詞が関係代名詞節の後にくる構文

(66) οἱ οὖν ἄνθρωποι ἰδόντες ὃ ἐποίησεν σημεῖον ἔλεγον
ὅτι οὗτος ἐστὶν ἀληθῶς ὁ προφήτης ὁ ἐρχόμενος
εἰς τὸν κόσμον. 6,14

彼が行ったしるしを見て人々は言った、彼は真に

予言者だと。

(67) τότε μὲν ἔμεινεν ἐν ἡμῶν τόπῳ δύο ἡμέρας. 11,6
その時は自分がいた場所に二日間滞在した

(68) ἵνα γινώσκωσιν σὲ τὸν μόνον ἀληθινὸν θεὸν
καὶ ὃν ἀπέστειλάς Ἰησοῦν Χριστόν. 17,4
かれらがあなたを真の神だと認め、あなたが
送ったイエスをキリスト（香油を塗られた人）
と認識するように

この連体修飾関係は英語では関係代名詞と先行詞という術語が示すように展開的語順で固定したのにたいして、日本語では頑なに収斂的語順が守られる、という事実がこうした観察を通して明らかになるように思われる。

8. 属格と被修飾名詞の語順関係

(69) σὺ μοῦ νίπτεις πόδας 13,6
あなたが私の足をお洗いになるのですか

(70) οὐ μὴ νίψης μοῦ τοὺς πόδας εἰς τὸν αἰῶνα 13,8
私の足なんか絶対に洗わないで下さい

(71) κύριε, μὴ τοὺς πόδας μοῦ μόνον ἀλλὰ καὶ
τὰς χεῖρας καὶ τὴν κεφαλὴν. 13,9
主よ、私の足だけでなく手も頭も

前述の論文の中ではこれを「ペトロの心の微妙な動きが感じとれるような気がする」⁴⁾と説明した。この語順の違いはどのように説明できるだろうか。それをここで試みてみよう。

(72) ταῦτα ἐλάλησεν Ἰησοῦς
καὶ ἐπάρας τοὺς ὀφθαλμοὺς αὐτοῦ εἰς τὴν οὐρανὸν
εἶπεν.

πάτερ, ἐλήλυθεν ἡ ὥρα.
δόξασόν σου τὸν υἱόν,
ἵνα ὁ υἱὸς δοξάσῃ σε,
καθὼς ἔδωκα αὐτῷ ἐξουσίαν πάσης σαρκός,
ἵνα πάν ὃ δέδωκας αὐτῷ
δώσῃ αὐτοῖς ζωὴν αἰώνιον. 17,1-2

イエスはこう言って目を天に上げて言った。父よ、時が来ています。あなたの子に栄光をお与え下さい。子があなたに栄光を与えるために。彼にあなたがお与えになったすべてのものが彼らに永遠の命を与えるように。

τοὺς ὀφθαλμοὺς αὐτοῦ は展開的語順であり、σου τὸν υἱόν は収斂的語順である。前者では「彼の、すなわち、イエスの」という「個」の概念が具体的に表象されるのに対して、後者では σου と τὸν υἱόν の結び付きは固く、「あなたの」という「個」の概念の表象は後退していると主張できる。

従って、属格と被修飾名詞の関係が収斂的語順である(69)と(70)の文は「私の」を訳語からとり除いて「足をお洗いになるのですか」、「足なんか絶対に洗わないでください」と訳し、展開的語順である(71)は「主よ、私の足だけでなく手も頭も」となり、「私の」という「個」の概念が適切に把握できるように思われる。

もう一つ例を挙げて同じような説明を試みてみよう。

(73) ὅτι ὁ δούλος οὐκ οἶδεν τί ποιεῖ αὐτοῦ ὁ κύριος.
15,15

奴隸は主人が何をしているかを知らない

(74) μνημονεύετε τοῦ λόγου οὗ ἐγὼ εἶπον ὑμῖν.
οὐκ ἔστιν δούλω μείζων τοῦ κυρίου αὐτοῦ.
15,20

奴隸は彼の主人よりは偉大ではない、と私が
言った言葉を思い出しなさい。

(73)の収斂的語順 αὐτοῦ ὁ κύριος「主人」に対して(74)の τοῦ κυρίου αὐτοῦ「彼の主人より」は、文が「どちらが偉大か」という命題文だ

から、当然奴隷の「個」が表象され、従って展開的語順になっていると説明される。

- (75) μείνατε ἐν τῇ ἀγάπῃ τῆ ἐμῆ,
ἐὰν τὰς ἐντολάς ὑοῦ τηρήσητε,
μενεῖτε ἐν τῇ ἀγάπῃ ὑοῦ,
καθὼς ἐγὼ τὰς ἐντολάς τοῦ πατρός μου τετήρηκα
καὶ μένω αὐτοῦ ἐν τῇ ἀγάπῃ.15,9-10
私の愛の中にとどまりなさい。もし私の戒めを守るならば、あなた方は私の愛の中にとどまるでしょう、私が父の戒めを守って、彼の愛の中にとどまるように。

この文中の展開的語順の τῇ ἀγάπῃ μου と収斂的語順の αὐτοῦ ἐν τῇ ἀγάπῃ の対比も同じように説明される。所有形容詞の τῇ ἐμῇ では「私の」という「個」の表象がさらに前面に出ているように思われる。

- (76) μὴ παρασέσθω ὑμῶν ἡ καρδιά.14,1
心を乱すことがないように。

- (77) ταῦτα λελάληκα ὑμῖν
ἵνα ἡ χαρὰ ἡ ἐμῆ ἐν ὑμῖν ἦ
καὶ ἡ χαρὰ ὑμῶν πληρωθῆ.15,11

(76)の収斂的語順の ὑμῶν ἡ καρδιά に対して、(77)の ἡ ἐμῆ という所有形容詞と並列的に用いられている、展開的語順の ἡ χαρὰ ὑμῶν では「あなた方の」という「個」の表象が前面に出ていると説明される。

- (78) ἐὰν τὰς ἐντολάς ὑοῦ τηρήσητε, μενεῖτε ἐν τῇ ἀγάπῃ ὑοῦ,
καθὼς ἐγὼ τὰς ἐντολάς τοῦ πατρός ὑοῦ τετήρηκα καὶ μένω αὐτοῦ ἐν τῇ ἀγάπῃ.15,10
私の命令をあなたが守るならば、あなた方は私の愛にとどまるでしょう。私が父の命令を守って彼の愛にとどまるように

(75)で説明したこの文は別の視点からの説明も可能である。

ルター訳聖書 1984 年版

Wenn ihr meine Gebote haltet, so bleibt ihr in meiner Liebe, wie ich meines Vaters Gebote halte und bleibe in seiner Liebe.

1979年の統一翻訳 Einheitsübersetzung

Wenn ihr meine Gebote haltet, werdet ihr in meiner Liebe bleiben, so wie ich die Gebote meines Vaters gehalten habe und in seiner Liebe bleibe.

この文中の展開的語順の τὰς ἐντολάς μου と収斂的語順の αὐτοῦ ἐν τῇ ἀγάπῃ は対比という文体論的概念で説明される。

この対比という概念はこの言語の語順を考察するさい、非常に重要な概念だと考える。

次の文では定動詞の位置において対比が見られる。

(79) πίστευετε εἰς τὸν πατέρα καὶ εἰς ἐμέ πιστεύετε.
14,1
父を信じなさいそして私を信じなさい

(80) καθὼς ἠγάπησέν με ὁ πατήρ καὶ ἐγὼ ὑμᾶς ἠγάπησα.
15,9
父が私を愛したように私もあなた方を愛した

次の例では展開的語順と収斂的語順の対比が現われている。

(81) πῶς δύναται ἄνθρωπος ἀμαρτωλὸς
τοιαῦτα σημεῖα ποιεῖν; 9,16
どうして罪ある人がこのようなしるしを
行うことができるのか

現代ドイツ語では属格と被修飾名詞の語順は展開的語順が圧倒的に優勢であるが、それを補うように収斂的語順の所有形容詞が発達していること、稀にはあるが収斂的語順のザクセン2格が現われることを考慮に入れるとき、この言語において属格と被修飾名詞の間での展開的語順と収斂的語順の自由な交替はじゅうぶんに受容できると思われる。そして自由に見えるその交替も「個」という概念を持ち込み、さらに「対比」という文体論的な観点にたてば説明可能であるように

思われる。

最後にその交替が際立っている例文を挙げておこう。

(82) ὁ τρώγων μου τὴν σάρκα καὶ πίνων μου τὸ αἷμα
ἔχει ζωὴν αἰώνιον, κἀγὼ ἀναστήσω αὐτὸν τῇ
ἐσχάτῃ ἡμέρᾳ. ἡ γὰρ σὰρξ μου ἀληθὴς ἐστὶν βρῶσις,
καὶ τὸ αἷμα μου ἀληθὴς ἐστὶν πόσις. ὁ τρώγων μου
τὴν σάρκα καὶ πίνων μου τὸ αἷμα ἐν ἐμοὶ μένει
κἀγὼ ἐν αὐτῷ. 6,54—56

私の肉を食べ、私の血を飲む者は永遠の命をもち、
最後の日にその人を復活させよう。私の肉は真の
食べ物であり、私の血は真の飲み物だから。私の
肉を食べ、私の血を飲む者は私の中にとどまり、
私も彼の中にいる。

この文中では μου τὴν σαρκα (収斂的語順) と η σαρξ μου (展開的語順)、μου το αιμα (収斂的語順) と το αιμα μου (展開的語順) という交替が見いだされる。

-
- 1) 『プロピレア』第14号2002年
 - 2) 同書32頁
 - 3) 修士論文「日本手話における指さし表現の分類」広島大学文学研究科2003年 p.48
 - 4) 同書34頁

Untersuchung über die zusammenziehende Wortstellung und die entwickelnde Wortstellung des Adjektivs des Altgriechischen

Toshiyuki TAKESHIMA

Im Altgriechischen setzt man ein attributives Adjektiv dem bestimmten Substantiv vor oder nach. Genauso setzt man ein Demonstrativpronomen, einen Relativsatz, ein attributives Partizip und einen Genitiv dem bestimmten Substantiv vor oder nach. Ich habe die Wortstellung, daß man ein attributives Wort dem bestimmten Wort vorsetzt, zusammenziehende Wortstellung genannt und die Wortstellung, daß man ein attributives Wort dem bestimmten Wort nachsetzt, eine entwickelnde Wortstellung.

Als Quellenmaterial habe ich das Evangelium nach Johannes benutzt und die folgenden Tatbestände feststellen können.

Ein Numerale setzt man meistens dem bestimmten Wort vor, d.h. in vielen Fällen kommt eine zusammenziehende Wortstellung vor. Im Satz mit entwicklender Wortstellung eines Numerales kann man feststellen, daß das Numerale einen bedeutenden Wert hat.

πav“alles“ setzt man meistens einem bestimmten Wort vor, d.h. in vielen Fällen, wenn man πav gebraucht, herrscht eine zusammenziehende Wortstellung. Dagegen gebraucht man in der entwickelnden Wortstellung das Wort in der Bedeutung „jedes“.

Beim attributiven Adjektiv und dem Demonstrativpronomen findet man beide Wortstellungen, also die zusammenziehende und die entwickelnde Wortstellung. Die entwickelnde Wortstellung kann man als schildernd und beschreibend auffassen. Beim Substantiv der entwickelnden Wortstellung zeigt sich deutlich der Begriff des „Einzelnen“. Dagegen zeigt sich im Substantiv der zusammenziehenden Wortstellung der Begriff des „Einzelnen“ undeutlich oder gar nicht.

Einen Relativsatz setzt man meistens einem bestimmtem Wort nach, wie im Deutschen und Englischen, aber man kann selten Sätze finden, in denen man einen Relativsatz einem bestimmten Wort vorsetzt.

Einen Genitiv kann man frei einem bestimmten Wort vor oder nachsetzen. Doch zeigt sich beim Substantiv der entwickelnden Wortstellung der Begriff des „Einzelnen“. Dagegen zeigt sich beim Substantiv der zusammenziehenden Wortstellung der Begriff des „Einzelnen“ undeutlich oder gar nicht.